

特定非営利活動法人 さざなみ会

KP神奈川精神医療人権センター 2021年度 報告書

2021

会長 藤井哲也からの メッセージ



KP神奈川精神医療人権センターは、設立以来2周年が経過し、人権擁護に焦点をあてながら多くの精神障害当事者、ご家族の支援にスタッフ一同取り組んで参りました。たくさんのご要望を引き受けながら、その時できる最善の対応をして参りました。今後もより多様な支援を模索しながら邁進していく所存ですのでご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

目次

01.

代表からメッセージ

02.

2021年度相談について

03.

ボランティアの声

04.

電話相談ミーティング

05.

精神科医による講演会

06.

勉強会

07.

1周年シンポジウム

08.

630調査

2021年度 相談について

今年度も、たくさんのお電話やメールをいただきました。KPは精一杯対応しました！もっと経験を積んで、多くのご相談に対応していけたらと思っています！

今年度までの新規相談の数

280名

2020年5月に開始した電話相談ですが、2022年3月までにお受けした相談は、280件にのぼりました。（2020年度に96件、2021年に184件）HPだけでなく、新聞に掲載される機会も増えたためだと思います。2022年2月には他県にある精神医療人権センター5か所と一緒に「全国一斉相談」を実施しました。より認知度が広がってきた実感があります。

今年度の延べ相談数

413件

KP事務所には、新規のご相談以外にも、継続のご相談もいただきます。今年度は1年を通して413件のお電話、メール、訪問、面会に対応しました。



電話相談の様子

今年度、相談活動に参加した
ボランティアの数

33名

2021年度は、33名のボランティアにご協力いただきながら電話相談活動を行いました。温かいボランティアたちに支えられているKP事務所です。

相談ボランティアの声

当事者、家族、学生、研究者…と様々な立場の方がボランティアを努めています。今回は、お二人から言葉をいただきました！



佐藤 未来さん（学生）

大学、アルバイトと並行して電話相談に入って下さっています。いつもニコニコな佐藤さんがいると、事務所が和みます。大学では人類学を勉強しています。

私は、イタリアの精神科医であるバザーリアの取り組みを題材とした映画を見たことがきっかけで、大学入学以前より日本の精神医療福祉に関心がありましたが、なかなか当事者に話を聞いたり支援者と話をしたりする機会や環境がありませんでした。そこで、障害のある方々の現状を生々の声を通して知りたいと思い、KPの電話相談ボランティアを始めました。

病院の退院や転院、減薬、地域生活上の困難に対する相談が多く、素人であり人生経験の浅い私には対応が難しい相談も多いですが、同じボランティアさんや事務局の方々のフォローのおかげで楽しく仕事ができています。KPのピアの皆さんが当事者だからこそできる支援があるように、私も学生の身分だからこそ提供できる支援があるのではないかと考え、精神医療福祉の知識を吸収したり、雑談を通してピアの考え方を学んだりして相談者に寄り添った対応が出来るよう奮闘する日々です。

KPでの活動を始めるまで、私もこの領域との接点を持つことが困難だったように、当事者の方々が活発に活動していることが関係者のみにしか届いていないのではないかと感じていました。私が参加することで、KPの活動と共にピアの方々についても少しでも多くの方々に広まればいいなと思っています。



細田 直樹さん（ピアボランティア）

落ち着いた雰囲気の細田さん。仕事をしながら、電話相談のシフトにも入って下さっています。ご自身の体験も交えながら、相談に対応されています。

私が、電話相談のピアボランティアをはじめたのは、「自分が何か人のために役に立つ事はできないか」という気持ちからです。その事を金沢区の生活支援センターのワーカーさんにお話したところ「電話相談のボランティアがあるよ」とKPの存在を教えてくださいました。リーフレットを頂きました。そしてKPに電話をかけたところ、ボランティアさんが電話に出たので、「電話相談のボランティアをやりたいのですが」と伝えたのがボランティアを始めたきっかけです。

それから、相談内容は様々ですが、印象に残っているのは、2時間位の長い相談でした。その後その相談者様が事務所においでになり、みんなで話を聞きました。また、退院についての相談、DVについての相談など未熟な私にはなかなか難しい相談が多いです。勉強して頑張ろうと思います。やってみて感じたのは、毎回電話を取ると相談者様がどんどんお話をして下さいますので助かります。一番最初のボランティアの日、先輩が相談を受けている姿を見ていて、自分には到底あんな風に上手くは出来ないと思い逃げ出したいとおもいましたが、逃げなくてよかったです。そして予想外だった事ですが、私は、生活費を稼ぐ為に焼き肉レストランで働いているために、講習やイベントに参加が出来ない事です。最後にこんな私をボランティアに入れて下さっている、神奈川精神医療人権センターのみなさま、ありがとうございます。これからもよろしくをお願いします。

電話相談ミーティング

今年度、開催した
電話相談ミーティングの数

22回



広瀬 隆士さん（KP相談員）

35年間、精神科クリニックのケースワーカーをされていました。いつもみんなに適切なアドバイスをさせていただきます。

電話相談ミーティングは、月に2回、1回1時間枠で10人前後参加して、どの相談事案を特に検討し合うか、ピア中心のボランティア・スタッフが、感情吐露も含む意見交換を重ねました。各人の新たな困り事や工夫・アイデアを、ざっくばらんに「普段着」でおしゃべりし耳を傾け合う会議進行でした。

電話・メール・手紙による相談・傾聴（「はじめまして」から、積み重ね、終了法まで）への対応法、相談者目線に沿いたい理解・返答のあれこれ、人権（侵害）・保健・医療・福祉の実情や原則、法制度や専門知識（家）との照合・紹介のあれこれ等、みなでコンパクトに学び合う機会となりました（動画学習も含む）。そして「退院・処遇改善請求」手続きへの支援・事務所での対面相談、病院訪問等、実践への役割分担、共有と、その後の振り返りも、不十分ながら共有してきました。

情報共有だけでなく、相談を受ける側の苦悩、ハラスメントやトラウマフラッシュバック受難等、相談員間の分かち合いや「ピアサポート」の機会としても重要でした。その他、相談当番日・ミーティング参加への各人のスケジュール調整、交通費等の支給、時間不足、会議中でも電話相談に対応等、まるで「野戦」相談会の風情ではあった…？と感じます。



奥原 孝幸さん（神奈川県立保健福祉大学のKP大好き作業療法士）

お忙しい中、電話相談にも積極的に入って下さる奥原さん。みんなからとても頼りにされています。

ミーティングの内容を振り返ると、電話相談時に対応に困ったことやそれにどのように対応したらよいか为中心ですが、嬉しかったこと、1本の電話相談から訪問相談や来所相談につながったり、裁判にまでつながるものなど継続している相談の報告、電話相談の研修動画の視聴と意見交換、事務連絡など盛りだくさんです。

これまで1年継続して開催してきましたが、このミーティングに相談者が相談員として参加いただくこともありました。嬉しかったことのひとつです。また、電話相談対応も最初はびくびくしながら出ていましたが、少しゆとりをもって出ることができていますし、このミーティングでの意見交換も深く濃い内容に変化してきていて、ドキッと気付かされることもとても多いです。

このミーティングは、そもそも電話相談のためのものですが、単にこんな相談があったではなく、どのように対応したらよかったのか困った、からスタートし参加者で意見交換して、次につなげていくよいサイクルができてきています。電話相談グループとしてのまとまりもできてきています。その中で相談員個々の成長が大きく実感され、いつもほっこりさせていただいています。

今後も安心して電話相談に臨めるための、嬉しい、やってよかったと思える電話相談グループづくりのためのミーティングを続けていければと思います。

素敵なKPを作っていきましょうね。

精神科医の講演会・意見交換会

臨床の第一線で活躍する精神科医による講演会を3回開催しました。講演会の後には意見交換会を行い、KPの活動や、相談を受ける中で感じたことをお伝えすることもできました。



大野 裕さん (認知行動療法の第一人者・精神科医)

「コロナ禍の今だからこそ心が晴れる勉強会」
2022.7.3

患者支援をしていく私たちが、知っておくべき知識として、認知行動療法についてご講演いただきました。大野さんは、具体例を豊富に挙げながら、認知行動療法のプロセスを説明。「何故、私は今日、電車に乗って会場に来たのか」と、車の事故リスクと電車の感染リスクを冷静に考慮して電車での移動を選択した、という当日の判断も認知行動療法的にとらえられる、という説明や、面接場面のロールプレイ動画を使用した解説など、非常にわかりやすく実践的に、日常生活にも活かせる形で多くの知見を得ることのできた勉強会でした。

松本 俊彦さん (依存症の第一人者・精神科医)

「見える傷の背後には見えない傷がある
～著書「誰がために医師はいる」に込めた思い～
2021.10.31



松本先生がどのような人生や診療経験を経て現在に至るのか、詳しくお話を伺いました。友人のこと、タバコやカフェインが止められないこと、覚醒剤と著名人のこと…。深刻な内容ですが、軽快にお話していただきました。KPでも、依存症についての知識を深めていくことで、より良い相談活動につなげられるのと思いました。



張 賢徳さん (自殺の第一人者・精神科医)

「コロナ禍の今 自殺をどうしたら防げるのか」
2022.2.6

精神科医で日本自殺予防学会理事長の張賢徳さんに、お話を伺いました。「人はなぜ自殺するのか」「自殺したいと言われたらどう対応したらいいのか」など、多くの方が持つ問いかけに答えていただきました。参加した電話相談ボランティアからは、「『こんなに辛いなら死にたい』という電話がよくかかってくる。どう答えたらいいのかわからなかったが、今回ヒントをもらえた」などと感想をいただきました。

勉強会

今年度、7名の講師を招いて勉強会を行いました。

高森 信子さん （SSTリーダー・心のカウンセラー）
2021年6月30日 「ストレスに悩む人のためのコミュニケーション術」

「人権問題は家の中から起こっている」と高森さん。その問題にどう気づき、向き合っていくか。KPも考えさせられる良い機会になりました。

谷光 妙子さん （元「精神科早期介入の問題を考える会」代表）
2021年7月6日 「減薬の経験について」

谷光さんのご家族の、壮絶な減薬の体験を聞かせていただきました。必要以上に処方されてしまった時に、薬を減らすことがいかに大変か、考えさせられました。

上坂 紗絵子さん （大阪精神医療人権センター事務局長）
2021年8月10日 「大阪精神医療人権センターの歴史・取り組み」

KPの先輩である、大阪精神医療人権センターの歴史や取り組みについて詳しくお話を伺いました。上坂さんに神奈川の活動も見ていただくことができました！

石原 孝二さん （東京大学大学院総合文化研究科 教授）
2021年10月5日 「相談活動における利益相反について」

権利擁護活動の中で、KPが考えなくてはいけない利益相反の問題を、一から教えていただきました。ボランティア間で共有すべき重要なお話でした。

吉田 陽子さん （精神保健福祉士）
2021年11月2日 「大学病院での精神保健福祉士の経験」

精神科病院の入院形態や医療観察法についてお話いただきました。KPがまだまだわからない病院の中のこと。丁寧に教えていただく機会となりました。

三瓶 芙美さん （精神保健福祉士）
2022年1月11日 「三瓶さんのおはなし会」

精神科のソーシャルワーカーとどう連携をとっていけばいいのか。仕事内容を話しながら、一緒に考える機会を三瓶さんに作っていただきました。

中澤 正さん （日本てんかん協会神奈川県支部副代表・精神保健福祉士）
2022年3月1日 「知ってほしいてんかんの現状」

てんかんについての質問をKPで募集したら、たくさん出てきました！KPはてんかんについてはわからないことだらけ。ひとつひとつ、丁寧に答えていただきました。

1周年シンポジウム

KP設立1周年記念イベント
シンポジウム + 演劇公演 + Mad Pride Yokohama



TALK BACK

私たちは
もう黙っていない

コロナ禍の逆風の中、感染防止対策を徹底して8月7日に開催したKP設立1周年記念イベント「TALK BACK 私たちはもう黙っていない」は、横浜市健康福祉総合センターホールにはほぼ満員(コロナ対策で使用座席は半分)の観客を集め、大成功となりました。

精神医療国家賠償請求訴訟の関係者たちを招いた第1部は、KPイベント統括を務める佐藤編集長と、原告の伊藤時男さん(70)との対談で幕を開けました。16歳の時、なぜか「アルコール依存症」と診断されて精神科病院に初入院させられたことや、夜中に脚がつってうめき声を上げたら親戚に「再発」と勘違いされ、再入院させられたことなど、不条理な体験の数々が語られました。

続いて、精神医療国家賠償請求訴訟研究会事務局長で精神保健福祉士(PSW)の古屋龍太さんが「精神国賠と精神保健福祉士—PSWの私たちも、もう黙っていない」と題して講演しました。古屋さんは「諸外国に類をみない日本の精神病床の多さは、今も変わりません。この状況を招いた原因は、国策として行われた長期隔離入院収容政策と、精神保健医療福祉に関わる法制度にあります」と指摘。今回の訴訟を「精神保健福祉士としての存在価値を賭した、大切なソーシャルアクション」とし、理解と協力を求めました。

次に登壇した同研究会代表の東谷幸政さんは、提訴に至るまでの、原告募集の段階で誹謗中傷を浴びた経験などを明かしました。それでも「見て見ぬふりはできない」と、粘り強く活動を続け、作家の織田淳太郎さんの紹介で伊藤時男さんと出会ったことをきっかけに、2020年9月、提訴に至ったと語りました。

最後に、1部の参加メンバーで総合討論を行いました。他国にはない強制入院制度(家族の同意で精神科病院に閉じ込める医療保護入院制度)の問題や、治安維持的な目的で現在も精神科病院が使用され続けている問題などが指摘されました。

第2部では、精神科医のくるみざわしんさんが脚本を書いた演劇「精神病院つばき荘」が、1年10か月ぶりに再演されました。双葉病院や福島第一原発事故などがモチーフの2時間に及ぶこの劇は、3人の俳優たちの熱演もあって、圧巻の一言。

第3部では、OUTBACKアクターズスクールの受講生たちが、身体拘束や服薬強制などの実体験をもとに寸劇を披露しました。深刻な人権問題を含む内容でありながら、「人類皆兄弟」を唱える謎のサムライが出現するなど、2部までの重い空気を一変させるコミカル劇に会場は大爆笑。白衣姿で舞台上に突然上がることになった伊藤時男さんも、迷惑な精神科医「ドクター時男」をアドリブで演じ、笑いとお万雷の拍手を浴びて満足そうでした。

来場者からは「2部までの深い内容もよかったが、3部の大どんでん返しに衝撃を受けた。何かを変えるかもしれない凄い力を感じた」など感想をいただきました。ご来場いただいた皆様、ありがとうございました！(KPホームページから転載)

630調査（精神科の実態調査）

KP630調査チームは、1年間かけて情報公開請求を行いました。神奈川県から「公開拒否」だった最初の申請から、最終的には「全開示」となるまで…いろいろなことがありながらも、やりがいのある作業をしてまいりました！



稲川 洋さん（藤沢市の家族会所属）

電話相談、病院面会、630調査…と全ての活動に参加して下さっています。細やかな対応をされます。データから見える難しい話を、わかりやすく説明して下さいます。

630調査は厚生労働省が全国の精神科を有する医療機関を対象に毎年6月30日現在で行っている大規模な調査で、KPでは患者や家族への情報提供のため、今回初めてその調査資料の情報公開を神奈川県などに求めました。

この情報公開請求に対する神奈川県の対応は、この1年間で当初のゼロ回答から満額回答へと180度変わりました。

630調査の情報公開については、精神科病院の経営者の団体である日本精神科病院協会が2018年に「慎重な取り扱い」を求めて出した声明文を契機に、全国的に不開示が相次ぎ、我々も覚悟して神奈川県に情報公開を請求したのですが、案の定、県からは個人情報や日精協の声明文を理由に全面公開拒否という最悪の回答が来ました。このため我々は県の第三者機関である情報公開審査会に審査を請求したところ、審査会にかかる前に、県から「全面不開示を撤回し、一部開示する」という非公式の連絡がありました。我々としては一部開示でも不満だったので、再度、全面開示を求めて審査を請求、すると今回も審査会にかかる前に、県から「一部開示を撤回し、全面開示する」との連絡が入りました。

結局、2回の非公式な方針転換を経て全面開示に至りました。なぜこのように方針が転換されたのか、県の内部事情は分かりませんが、背景としては、まずKP所属のジャーナリスト、佐藤光展氏が行った日精協の山崎学会長へのインタビューで同会長から「開示されても問題ない」と従来の方針の転換を示唆する発言を得たこと、また大阪や東京など630調査の情報公開を求める全国の市民団体と緊密に連絡を取り合い、豊富な情報や資料を入手できたこと、さらに埼玉県やさいたま市の情報公開審査会が630調査は開示すべきという的確な答申を出したことなどがあり、それらを審査請求書で主張できたことが大きかったと思います。

KPとしては今回得られた資料をWebや出版物で公開する予定です。今後、精神科病院の利用者のニーズにできるだけ応えられるよう、更に充実した情報提供を目指して行きたいと思っています。



ピンクわかめちゃん（学生）

KPの頭脳担当。高い分析力で、大量のデータを見やすく整理して下さいました。ピンクがトレンドマーク。

稲川さんはじめ、KPの皆さんが集めてくださった630調査のデータを取りまとめ、冊子やホームページなどで公開するお仕事をしています。そのままでは複雑でなかなか分かりづらいデータをシンプルな表にする作業を通して、神奈川の精神科病院の現状について、いろいろと勉強になりました。

神奈川県全体の病床数は減少傾向にありますが、その稼働率は8割程度のままで変化がありません。このような具体的な情報を、誰もがアクセス可能なものにしていく活動は大変意義深いと感じています。近日KPホームページや冊子で分かりやすく公開予定なので、ご期待ください！

KP 2021年報告書

KPを支援してくださる皆様に感謝を込めて。
いつもありがとうございます！
これからも、よろしくお願い致します！

※収支報告は、
2021年度の全ての事業が
完了したあとに
ご報告させていただきます。
2022年5月

KP神奈川精神医療人権センター

事務局

〒235-0023
横浜市磯子区森3-14-3

045-353-5711

<https://kp-jinken.org>
mail@kp-jinken.org
[@kanagawapeer](https://twitter.com/kanagawapeer)